

2023年度 学校自己評価

文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、昨年度に続き教職員による学校自己評価を実施しました。卒業生に対して実施した教育評価の満足度・到達度のアンケート結果とあわせ評価しました。集計結果を基に学校運営上の課題を明確にし、改善につなげるとともに、外部委員の参画による意見を取り入れ、受益者である学生の学習環境改善に努めてまいります。

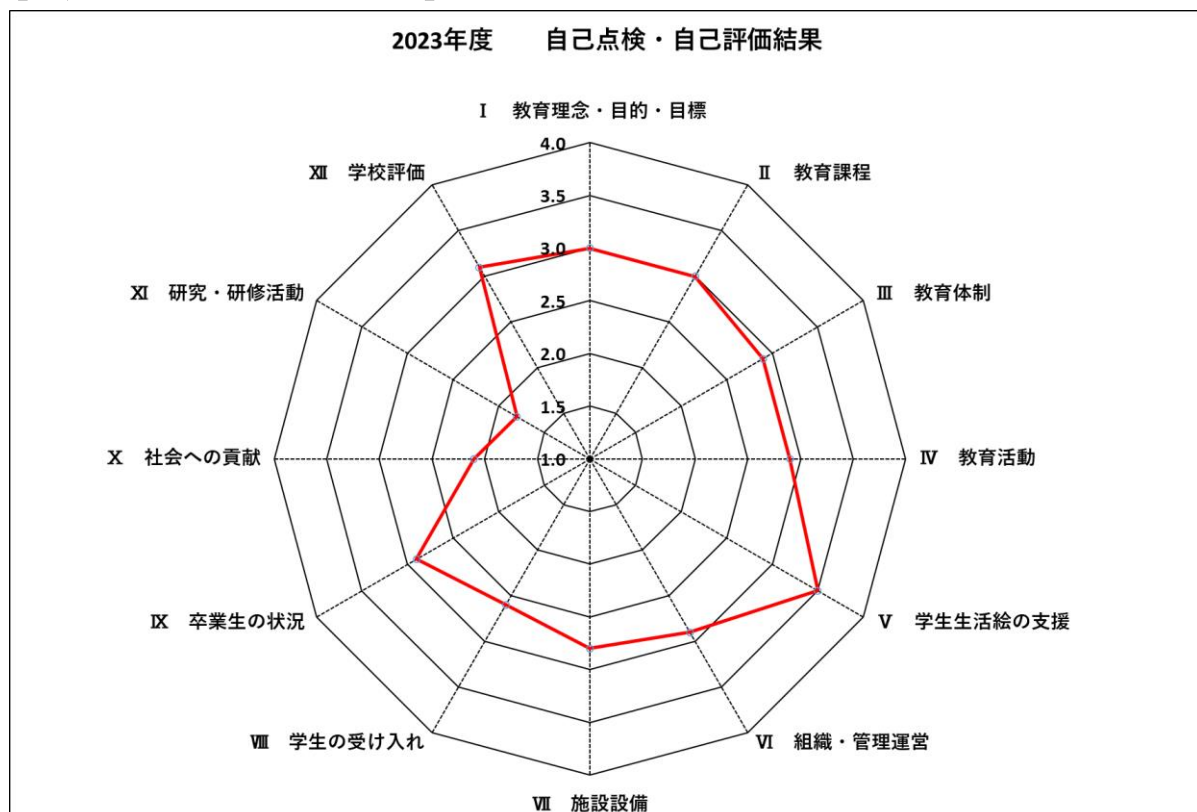
【大項目評価】

評価は右記の4段階とした 4：良い 3：やや良い 2：やや不十分 1：不十分

I	II	III	IV	V	VI
教育理念・ 目 標	教育課程	教育体制	教育活動	学生生活支援	組 織・ 管理運営
3.0	3.0	2.9	2.9	3.5	2.9

VII	VIII	IX	X	XI	XII
施設設備	学生受け入れ	卒業生の状況	社会への貢献	研 究・ 研修活動	学校評価
2.8	2.6	2.9	2.1	1.8	3.1

【大項目評価のレーダーチャート】



2023年度 自己点検・自己評価結果

評価基準: 良い(4) やや良い(3) やや不十分(2) 不十分(1)

項目	番号	細目	項目平均	細目平均
I 教育理念・目的・目標	1	教育理念・教育目的は、法との整合性がある	3.0	3.6
	2	教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している		3.1
	3	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している		3.5
	4	教育理念・教育目的・目標は、学生にとって学習の指針となるように具体的に示している		3.0
	5	教育理念・教育目的・目標は、養成する看護師が卒業時点に持つべき資質を明示している		3.2
	6	教職員は教育理念・教育目的・目標について認識し、共有している		2.7
	7	教育目標は、学生・保護者に浸透している		2.4
	8	卒業時の到達状況を分析し、教育活動にフィードバックしている		2.7
	9	教育理念・目的・目標は社会の変化、ニーズに対応し見直している		2.5
II 教育課程	10	教育課程は看護学の内容・求める学修の到達及び学生の成長発達について明確な考え方と根拠を持って編成されている	3.0	3.1
	11	教育理念・目的・目標にあった科目設定をしている		3.2
	12	教育課程・授業・評価に一貫性がある		2.6
	13	科目設定には学校の特色を盛り込んでいる		3.0
	14	科目の学科目的・目標は明確に設定している		3.4
	15	指定規則に合致した科目と単位・時間を設定している		3.8
	16	教育理念・目標に合った順序性で科目を配列している		2.3
	17	科目の位置づけと科目間の関連性を明示している		2.8
	18	教育課程の評価・見直しは定期的(年1回)に行っている		3.1
	19	教育課程の見直しは学生・講師・教員の意見を反映している		2.6
	20	教育課程を評価する体系が整っている		2.6
21	教育課程評価結果の活用において、倫理的配慮を行っている	3.3		
III 教育体制	22	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	2.9	2.5
	23	科目を担当する講師は、その分野を教授するのにふさわしい人が担当している		3.0
	24	科目ごとの授業内容を整理し、担当者へ周知している		3.0
	25	時間割の進度は、授業計画通りに行われている		2.2
	26	各学年ごとにかリキュラムガイダンスを行っている		2.8
	27	実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している		2.6
	28	実習施設は学生の看護実践を支援する体制を整えている		2.8
	29	実習施設は実習目的を果たすために適切・妥当であるか定期的に見直している		2.7
	30	大学(短大)卒の入学生に単位の認定制をとっている		3.2
	31	単位認定のための評価基準と方法を学生及び関係者へ公表している		3.2
	32	単位認定会議は年2回、卒業認定会議は年1回、開催している		3.7
	33	効果的な教育方法について、検討の場を持っている		2.3
	34	教員の教授活動を評価する体系が整っている		2.5
	35	国家試験対策の教育システムを整えており、個々の学生に合わせた指導を実施している		3.5
IV 教育活動	36	学生便覧は内容・構成が工夫して作成され、学生が活用している	2.9	2.6
	37	シラバスが作成され、活用について学生に説明している		3.3
	38	単位履修の方法とその制約について教員・学生双方がわかるように明示している		3.2
	39	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている		3.2
	40	授業計画に基づいて授業を実施している		3.1
	41	授業形態(講義・演習・実習)は、授業内容に応じて選択している		3.4
	42	授業内容は精選され、学生のレディネスにそって構成されている		3.0
	43	学生が主体的に考え、学習することが可能な授業形態が導入されている(グループワークなど)		3.0
	44	視聴覚教育機器・器材の質と量は十分で、効果的に活用されている		2.9
	45	教育において日常的に教材研究を行っている		2.2
	46	実習指導者と教員は、役割分担を明確にして指導している		2.7
	47	授業評価結果に基づいて、実際に授業を改善している		3.0
	48	学生の学習活動を多面的に評価するために多様な評価の方法を取り入れている		2.3

V 学生生活への支援	49	定期的に健康診断を実施している	3.5	3.5
	50	学生が日常生活の健康管理ができるように指導している		3.2
	51	臨地実習での感染防止の対策をとっている		3.7
	52	学生相談の窓口を設けていることを学生に周知している		3.7
	53	学生相談の専任のカウンセラーをおいている		3.8
	54	学生のプライバシーが保持されるシステムを整えている		3.4
	55	奨学金制度について学生・保護者に周知している		3.8
	56	学生が学業を継続できる支援体制を多角的に整えている ・特待生制度、奨学金、カウンセリング、履修科目の認定、傷害保険、卒業・就職等の進路に関する相談・支援等口		3.5
	57	中途退学者を少なくする工夫・学習支援体制を整えている		2.9
	58	必要時、保護者と適切に連携している		3.3
VI 組織・管理運営	59	教員組織は運営に必要な人数と職種が配置されている	2.9	1.8
	60	教員は、看護教員養成課程を修了している口		2.6
	61	教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている		2.0
	62	教員のキャリアを支援するための教員ラダーが活用されている		2.6
	63	教員は看護学の専門領域ごとに配置できている口		3.0
	64	実習調整者は専任で配置されている		2.8
	65	職務分掌にそって職員は各々の役割を遂行している口		3.0
	66	業務内容は効果的な職務遂行ができるよう適宜見直している		2.5
	67	学校運営会議は週1回、教員会議は月1～2回、定期的に開催している		3.7
	68	学籍簿は学籍の記録、履修状況が正確に記載され、証明機能を備えている		3.7
	69	学籍簿は保管が適切になされ、秘密が守られている		3.8
	70	学校の事業計画を立てている		3.3
	71	職員全員が経営意識を持っている		2.7
	72	職員は歳出削減に向けて努力している		3.0
73	在学生は定員の90%以上を満たしている	2.7		
VII 施設設備	74	学生数に応じた施設基準を満たす設備がある	2.8	2.6
	75	校内の施設利用は、学生の効果的な学習ができるよう配慮している		2.3
	76	学生ホールは整備され、憩いの場づくりができています		1.9
	77	災害時を想定した災害マニュアルが作成されている		3.4
	78	防災訓練は定期的に実施している		2.5
	79	図書及び視聴覚教材は、分野ごと、領域ごとに分類され整理されている		3.1
	80	蔵書数は学生数に見合った十分な冊数である		2.3
	81	学術雑誌は指定基準以上の種類を有している		3.6
	82	視聴覚機器が整備されている		3.0
	83	学生が利用しやすい時間帯に開館している		3.5
	84	必要な図書増備の予算計画ができています		2.4
	85	教材教具は定期的に点検を行っている		3.1
	86	専門領域ごとに教育内容にあった教材を計画的に増備している		2.7
	87	教材購入の経費は年次ごとに計画し、増備している		2.3
VIII 学生の受け入れ	88	学校の教育理念・目標を反映した学生募集方針を定めている	2.6	2.5
	89	学校説明会、オープンキャンパスの時期、内容は適切である		2.5
	90	入学者選抜の時期、方針、方法は適切である		2.6
	91	転入学の方法・基準を明文化している		2.8
	92	合格者からの入学率は50%以上である		3.5
	93	入学者は定員を満たしている		1.8
	94	志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされている		2.9

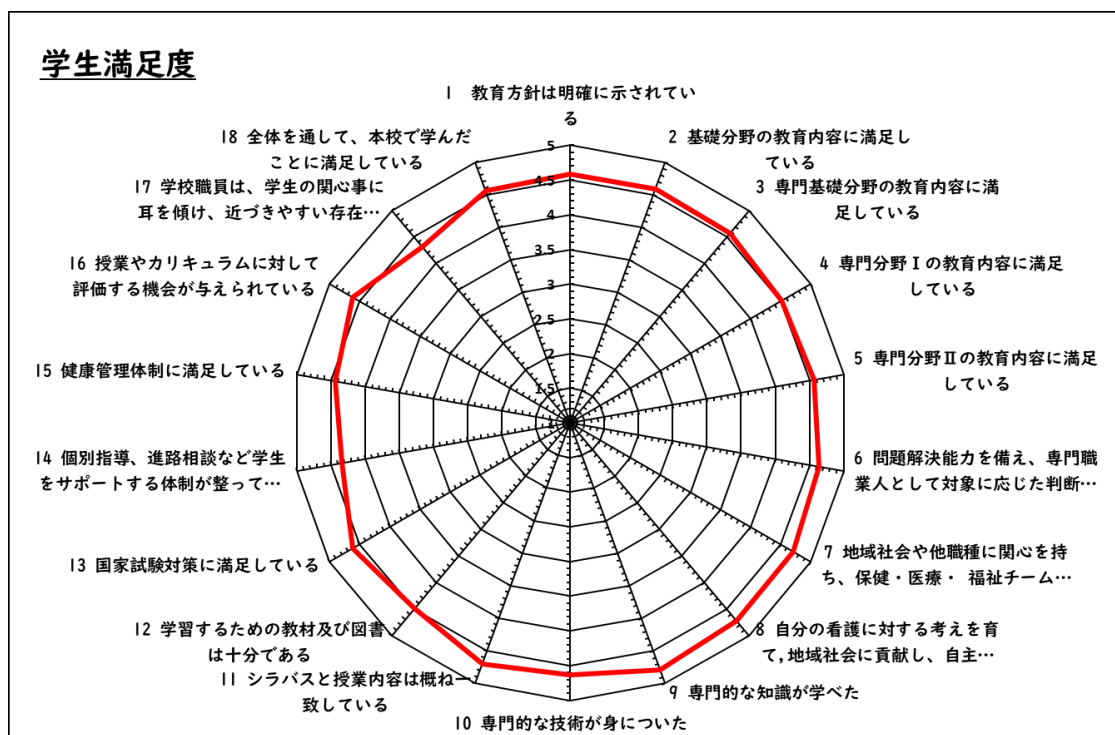
IX 卒業生の 状況	95	就職を希望する卒業生の就職率は100%である	2.9	3.2
	96	卒業・就業にあたっての進路相談・指導体制が整っている		3.1
	97	卒業時状況は入学時状況と比較している(学生数の変動等)		3.0
	98	卒業時の学生の看護実践力を把握している		3.1
	99	卒業生の就職先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている		2.2
	100	期待する卒業生像と、就職先での評価は妥当である		2.4
	101	国家試験合格状況は、全国の平均合格率を上回っている		3.4
	102	国家試験不合格者の背景、特性を分類し、教育活動に活かしている		3.1
X 社会への 貢献	103	看護教育および看護の情報を公開し、広報活動を行っている	2.1	2.9
	104	近隣施設へのボランティア活動に積極的に参加している		1.5
	105	近隣施設の生涯教育の場として学校を開放している		1.5
	106	高等学校と連携したキャリア教育に取り組んでいる		1.9
	107	国際的視野を広げるための授業科目を設定している		2.5
XI 研究・ 研修活動	108	教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)している	1.8	1.5
	109	教員は主体的に研究活動を行っている		2.0
	110	教員は看護・教育関係の学会に所属している		2.1
	111	教員は計画的・主体的に研修に参加している		2.0
	112	教員が研修に参加できるようなシステムがある		1.6
	113	教員は外部講師としての役割を果たし、活動している		1.8
XII 学校 評価	114	自己点検・評価のシステムがつくられている	3.1	3.3
	115	自己点検・評価の活動は教職員に明確に理解されている		3.1
	116	自己点検・評価に必要な基礎データの整備がなされている		2.6
	117	自己点検・評価を定期的実施している		3.3
	118	自己点検・評価の結果を公表している		2.8
	119	第三者による評価を実施している		3.6
	120	評価を次年度に活かし改善している		2.6

卒業生満足度アンケート調査結果

5回生109名(無回答16名)

	教育評価(卒業生満足度)	5回生
1	教育方針は明確に示されている	4.6
2	基礎分野の教育内容に満足している	4.6
3	専門基礎分野の教育内容に満足している	4.6
4	専門分野Ⅰの教育内容に満足している	4.5
5	専門分野Ⅱの教育内容に満足している	4.6
6	問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる	4.6
7	地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる	4.7
8	自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる	4.7
9	専門的な知識が学べた	4.8
10	専門的な技術が身についた	4.6
11	シラバスと授業内容は概ね一致している	4.7
12	学習するための教材及び図書は十分である	4.5
13	国家試験対策に満足している	4.6
14	個別指導、進路相談など学生をサポートする体制が整っている	4.3
15	健康管理体制に満足している	4.4
16	授業やカリキュラムに対して評価する機会が与えられている	4.6
17	学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である	4.3
18	全体を通して、本校で学んだことに満足している	4.6
全平均		4.58

5:大いにそう思う 4:そう思う 3:どちらともいえない 2:ややそう思う 1:思わない

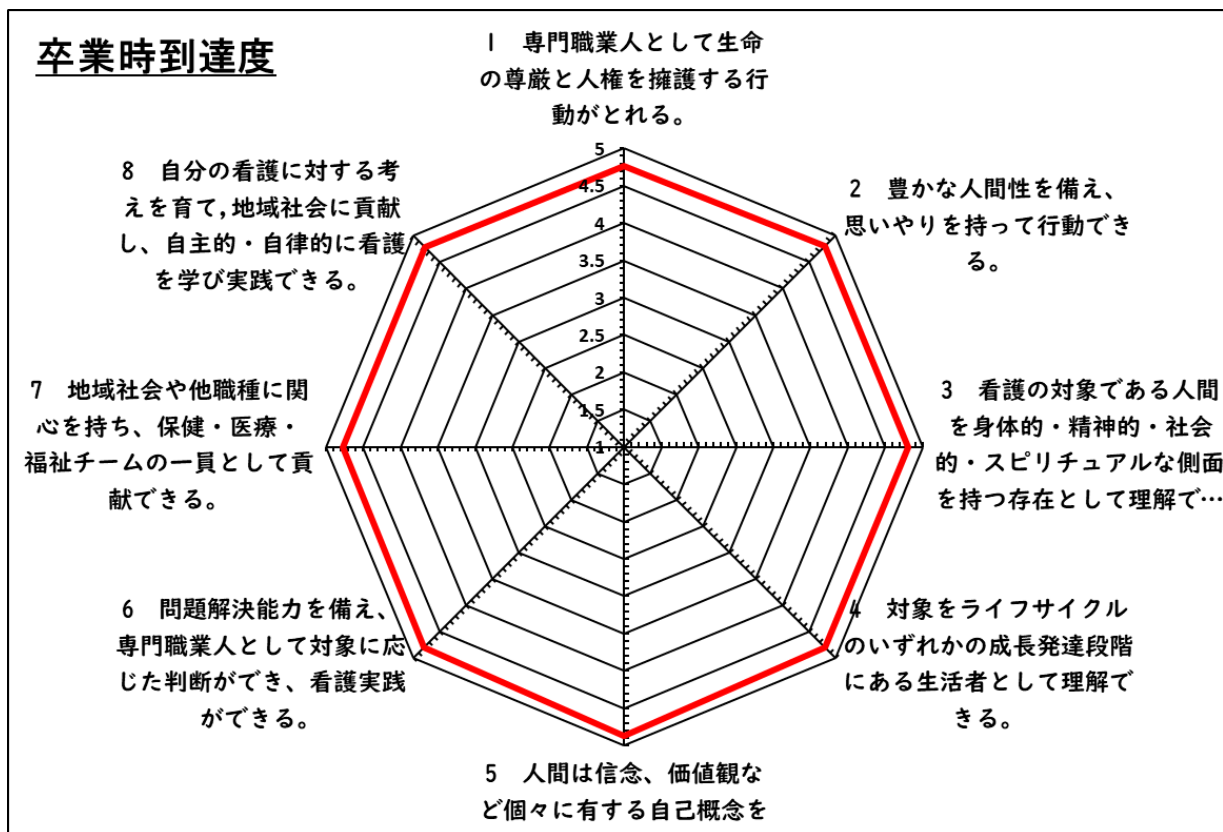


卒業時到達度アンケート調査結果

5回生 109名(無回答 16名)

教育評価(卒業時到達度)		5回生
1	1 専門職業人として生命の尊厳と人権を擁護する行動がとれる。	4.8
2	2 豊かな人間性を備え、思いやりを持って行動できる。	4.8
3	3 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面を持つ存在として理解できる。	4.8
4	4 対象をライフサイクルのいずれかの成長発達段階にある生活者として理解できる。	4.8
5	5 人間は信念、価値観など個々に有する自己概念を持つ主体的な存在として生活していることを理解できる。	4.9
6	6 問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる。	4.8
7	7 地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる。	4.8
8	8 自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる。	4.8
全平均		4.80

5:到達できた 4:少しできた 3:どちらともいえない 2:あまり到達できていない 1:全く到達できていない



【大番号評価の自己評価の要約と評価】（教員の評価は4段階、学生の評価は5段階で実施）

I 教育理念・目標：3.0

細目番号1「法との整合性がある：3.6」、細目番号3「看護、看護学教育、学生観について明示：3.5」は特に評価が高く、この項目で2.0未満の細目はない。

卒業生に対する満足度アンケート結果からは、番号1「教育方針は明確に示されている：4.6」と高く、「学生便覧」に教育目標を明示しており、入学時オリエンテーションで説明しているため、学生や保護者へは伝達されているといえる。しかし、教員の細目番号7「学生・保護者への浸透：2.4」であり、入学時オリエンテーションで説明しているものの、学生が理解して行動しているとはいえないととらえているため、機会を作り、教育目標を伝達する必要がある。

II 教育課程：3.0

細目番号15「指定規則に合致した科目と単位・時間を設定している：3.8」は特に評価が高い。卒業生の満足度番号2～5の教育内容に関しては、4.5～4.6であり満足度が高いと評価できる。

細目番号16「教育理念・目標に合った順序性で科目を配列している：2.3」については、2022年度より今年度は2名の教員が不足しており、実習指導に人員をとられたため、授業が計画通りに進まない状況があった。人員の増員が必要であるため、来年度は、2名増員の予定である。

2022年度カリキュラム改正があり、6回生より新教育課程が開始され、来年度は6回生が3年生となるため、年度末に評価し、問題点があれば修正していきたい。

III 教育体制：2.9

細目番号32「単位認定会議は年2回、卒業認定会議は年1回、開催：3.7」、細目番号35「国家試験対策の教育システムを整えており、個々の学生に合わせた指導を実施：3.5」は特に評価が高い。学生の満足度は、番号13「国家試験対策に満足している：4.6」、番号14「個別指導、進路指導など学生をサポートする体制が整っている：4.3」と評価を得ている。

教員の低い細目は、番号25「時間割の進捗は、授業計画通りに行われている：2.2」であり、理由は、「II教育課程」と同様で、教員不足により、実習指導に人員をとられたため、授業が計画通りに進まない状況があった。人員の増員が必要であるため、来年度は、2名増員の予定である。また、細目番号33「効果的な教育方法の検討の場を持っている：2.3」であり、今後、授業研究については、まず、各領域内から検討する必要があると考える。

IV 教育活動：2.9

シラバス等の見直しは、領域毎に検討し授業計画につなげており、学生の満足度から番号11「シラバスと授業内容は概ね一致している：4.7」、番号16「授業やカリキュラムに対して評価する機会が与えられている：4.6」と高い評価を得ている。

教員からの低い細目は、番号45「日常的な教材研究の実施：2.2」、番号48「学生の学習活動を多面的に評価するために多様な評価方法を取り入れている：2.3」であった。今年度は、2022年度より教員が2名削減され、実習指導や学生指導に時間がとられ、講義前に十分な時間の確保が難しい状況であった。来年度は、教員2名の増員の予定であり、業務の効率化を図りつつ教材研究の検討を行い、より良い授業作りを目指したい。

V 学生生活支援 : 3.5

学生に対する支援は他の項目と比較すると今年度も最も高い評価であり、10細目中6細目が3.5以上の評価である。今年度は心理カウンセラーの採用により学生の精神面の支援体制を整えたところで、4月に校外で学生の死亡事象が起きてしまったが、在校生の心情把握を担当・副担当が行い、カウンセラーと連携を図ることができ、在校生は学校生活に支障をきたすことなく過ごすことができた。

低い細目としては、昨年度同様、番号57「中途退学者を少なくする支援 : 2.9」であるが、学生からの満足度は、番号15「健康管理体制に満足している : 4.4」、番号17「学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である : 4.3」であり満足度は高めといえる。退学理由は家庭環境や生活面、学習困難などさまざまであり、学習困難となる前の早期支援をより充実させる必要がある。今後も、個別面談により心情を把握し、学生支援を継続していきたい。

VI 組織・管理運営 : 2.9

細目番号67「学校運営会議は週1回、教員会議は月1～2回、定期開催 : 3.7」と高い評価であり、運営会議で適時迅速な対応に努め、教職員は、業務分掌に従って役割を実施し、検討事項は教員会議や各委員会等で検討できているといえる。また、学校情報ツール（インフォクリッパー）を活用し、適時適切に学生・保護者への周知はできている。他に高い細目として、番号68「学籍簿は正確に記載され、証明機能を備えている : 3.7」、番号69「学籍簿の保管が適切になされ、秘密が守られている : 3.8」がある。

今年度、改善されたこととして、細目番号62「教員のキャリアを支援するための教員ラダーの活用されている : 1.5→2.5」については、教員の経験・役職によりラダーを決め、自己評価することができた。まだ、体制が十分とはいえないが、目標管理をしながら、来年度も自己評価を行っていきたい。

細目番号59「運営に必要な人員と職種が配置されている : 1.8」に関しては、2023年3月に8名退職し、4月に6名の採用であり、2022年度より2名削減されたため、教員の負担が増したが、来年度は増員2名を予定しており、やや改善がされると考える。

細目番号61「自己研鑽のシステム : 2.0」については、Webセミナー・学会の講演を9回分録画し、自己学習ができるような体制をとったが、興味を持てるようなテーマではなかったため、個別に自己研鑽するための環境作りから進めていきたいと考える。

VII 施設設備 : 2.8

3学年ともに定員が120名となったことと、コロナ感染により交流の場を制限しているため、細目番号76「学生ホールが整備され、憩いの場作り : 1.9」と3年間、低い評価が続いている。コロナ禍による制限は少しずつ解消してきているが、医療現場はまだ制限が厳しい状況にある。そこで、過密にならない工夫をしながら、憩いの場作りを検討していく必要があると考える。

評価が高い細目として、番号81「学術雑誌は指定基準以上の種類を有している : 3.6」、番号83「学生が利用しやすい時間帯に開館している : 3.5」であり、学生の満足度番号12「学習するための教材及び図書は十分である : 4.5」であったため、学習環境が整っているといえる。また、今年度は避難訓練を実施し、災害マニュアルを意識できたことで、細目番号77「災害時を想定した災害マニュアルが作成されている : 3.1→3.6」が高い評価を得ることができた。

VIII 学生受け入れ：2.6

広報を中心に東北6県の高校訪問(模擬授業)や進学セミナー参加による学校説明、当校の学校見学を継続しているが、この2年間の入学者数は定員を下回る結果となったため、細目番号93「入学者は定員を満たしている：1.8」であった。次年度も、高校訪問、当校の学校見学等を継続すると共に入学試験やオープンキャンパス内容を検討し、入学者を増やしていきたいと考える。

IX 卒業生の状況：2.9

今年度の国家試験合格率は現役生で97.2%(109名中106名)、既卒込みで92.3%(117名中108名)であった。3年生の希望者には准看護師資格試験も受験させ、今年度卒業の5回生・4回生の国家試験不合格の学生も資格を持って卒業することができた。既卒者8名に学習支援を試みたが連絡が取れない状況や学習進捗が見えない状況があり、8名中2名の合格であった。卒業生による満足度番号18「本校で学んだことに満足しているか」は4.6と高評価であり、現在の体制を継続していきたいと考える。

X 社会への貢献：2.1

この3年間、2.0未満の低い評価であるものは、3細目あった。

番号104「近隣施設へのボランティア活動に積極的に参加している1.5」については、今年、七郷地区サロン会のボランティアの依頼を受けたため、次年度から参加し、地域へ貢献したいと考えている。

番号105「近隣施設の生涯教育の場として学校を開放している：1.5」については、学校使用の依頼がないため、実績がないが、依頼があれば可能な限り開放したいと考える。

番号106「高等学校と連携したキャリア教育に取り組んでいる：1.9」については、体験授業を希望する高校については実施しているが、連携までには至っていない。しかし、小中学校の生徒の学校見学は受けており、看護学校の理解に努めている。

XI 研究・研修活動：1.8

この項目の評価は1.5～2.1と3年間、最も低評価である。外部研修参加の制度がなく、研修は勤務時間外の扱いになっているため、研修の体制作りが今後の課題である。また、教員の人員不足により、領域実習や学校行事、クラス担当、講義など業務が多岐にわたり、非常に多忙であった。人員を増員し、効率化を図りつつ、自己研鑽するための機会を設けられるような環境作りが重要である。

XII 学校評価：3.1

学校評価については、前年度より+0.5以上、上回っていたのは7細目中3細目あった。

細目115「自己点検・評価の活動は教職員に明確に理解されている：2.5→3.1」、細目119「第三者による評価を実施している：2.7→3.6」、細目120「評価は次年度に活かし改善している：2.1→2.6」であり、学校評価を実施するにあたり、教員会議で自己評価の概要や学校の現状説明を行ったことで教員が理解できた上で、回答しているといえる。学校評価をすることで本校の課題が明確となるため、評価結果をもとに改善できるよう検討していきたい。

2024年6月12日

学校関係者評価委員

1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価の内容

- (1) 自己評価番号等の適切性
- (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性
- (3) その他

3 学校関係者からの評価意見

評価者：葵会仙台病院病院長

- (1) 自己評価番号等の適切性
評価項目に関しては、大項目ならびに小項目共に過不足なく設定されており、適切であると思われる。
- (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性
上記評価項目毎に各々点数化されており、それに基づいた要約と評価がまとめられている。それぞれほぼ過不足なく解析されており、適切に対応されているものとする。各項目で、改善傾向を認める項目が多いが、社会貢献、研究、研修活動が低い評価となっているので、改善を期待する。
- (3) その他
卒業生の到達度評価が高いので、看護教育の到達度は高いと思われる。
満足度も高いことは、評価されうる。

評価者：葵会仙台病院看護部長

- (1) 自己評価番号等の適切性
自己評価は適性にできており、評価指数も妥当だと考えます。
 - ① 昨年とほぼ同様のレーダーチャートではあるが、「社会への貢献」が若干の上昇がみられています。病院の看護師教育にも貢献してもらっており、協力関係を今後も維持していきたいと考えます。
 - ② 卒業生のアンケート結果は、どの項目も評価が高く満足度が高いという結果がでていますが、「学校教員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である」の1項目が4.8から4.3と0.5減少しており、人員不足により教員に余裕がなかったのではないかと推察されます。一人ひとりに寄り添った指導ができるように、人員の確保を望みます。

- ③ 学生が主体的に学びたいという気持ちが表れており、実習への心構えや身だしなみ、安全面などの事前準備の指導が教員の方からきちんに行われているものと思われます。
- ④ 指導者と教員が連携して協力・分担して指導を行うことができしており、「実習が楽しい」「現場での気づきや学びが多い」「実習で患者さんに寄り添う看護を実践し、より看護師を目指したいと思った」などの声が学生から聞かれていた。このことから、良い実習を行うことができ学生の満足度も高くなっていると考えます。また、指導者が助言できる体制をきちんと整えて頂いていることで、良きロールモデルとなることが出来指導者の満足度にもつながっていると考えます。

(2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

自己評価の結果を踏まえて、今後の改善方策が適切に考えられています。

2年連続、学生が定員に満たない状況になっており、その対策として2024年度のオープンキャンパスに卒業生を参加させることになり、当院も積極的に協力させていただきます。自分たちに近い存在で自分たちが通る道を経験した“卒業生の話しは心に響くものがあると思います。今年度の取り組みが次年度の入学者数にいい影響を与えることを期待したいと思います。

(3) その他

- ① 2週間しかない実習を有意義に過ごすためには、学生自身の体調管理がきちんとできるようにして頂きたいと思います。
- ② 学生が成長していい看護師に育つよう、今後も学校と病院が協力していきたいと思います。

【総評】

学校関係者評価会議は、委員が一堂に会することがかなわず、各委員の書面により集約することとした。

卒業生評価では全項目4（そう思う）以上の高評価であった。卒業時到達度では8項目平均4.80に、卒業生満足度も18項目平均が4.58であり、今結果から学生の学習面・生活面の充実がうかがえた。今後とも、看護教育をめぐる諸情勢・諸動向を注視しながら、今回の点検で明確化した諸課題を一つずつクリアしていき、ますます地域社会に貢献できる学校であり続けていきたい。